

平成21年度沖縄群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平 年 並	40	40	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成21年3月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	21.3	24.0	18.9	180.7	134.1

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

カンショコバナナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 2～3月の気温に基づき、3月25日時点で防除適期を予想すると、2月以降の気温が高かったことから、平年よりも予想日が8～14日早かった。
- b この時期に茎当たり虫数が15頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- c 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月25日現在)

地 域 別	防 除 適 期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月4日～4月18日	4月11日	4月25日	14日早い
南・北大東島	4月5日～4月19日	4月12日	4月20日	8日早い

2 マンゴー

開花結実期の病害虫防除対策

- a 開花結実期を迎えたこの時期は、花穂を中心に炭疽病、うどんこ病、チャノキイロアザミウマ、ドクガ類などの病害虫が発生する。
- b 罹病部や新梢等の剪定残渣は病害虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 施設内外の除草をおこない、ハウス内の通気性を良くし、病害虫の発生源をなくす。
- d 病害虫の発生程度はまだ低いものの、気温の上昇とともに増加すると予想されることから、早期発見・早期防除に努める。
特に、例年病害の発生が多い圃場については、発生源の除去、湿度管理、予防防除等の対策を十分とる。

3 ウリ科野菜(施設)

アブラムシ類の防除対策

- 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並又は高い確率ともに40%、また降水量の平年並又は少ない確率は40%で、アブラムシ類の発生が助長されやすい。
- アブラムシ類はモザイク病の媒介虫であり、本病の発生を助長する可能性がある。
- アブラムシ類の飛来侵入を防ぐため、被覆資材の破れを補修する。
- 施設周辺の雑草は発生源となるので除草を行う。
- 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ミナキイロアザミウマの防除対策

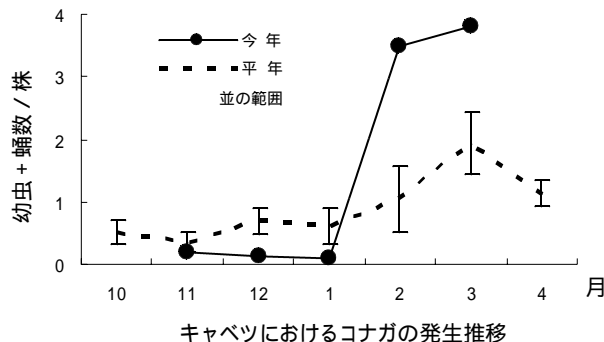
- 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並又は高い確率ともに40%、また降水量の平年並又は少ない確率は40%で、本種の発生が助長されやすい。
- ミナキイロアザミウマはスイカ灰白色斑紋病や、メロン・キュウリでは黄化えそ病の媒介虫であり、これら病害の発生を助長する可能性がある。
- 成虫の飛来侵入を防ぐため、シルバーマルチの利用や入口に2重カーテンを設置する。
- 施設周辺の雑草は発生源となるので除草を行う。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

4 キャベツ

(1)コナガ

発生程度 : 多
予報の根拠

- 3月下旬の調査の結果、株当たり幼虫・蛹数は3.8頭(前年1.8頭、平年1.9頭)と平年より多かった。
- 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並又は高い確率ともに40%、また降水量の平年並又は少ない確率は40%で、本種の発生が助長されやすい。



防除上注意すべき事項

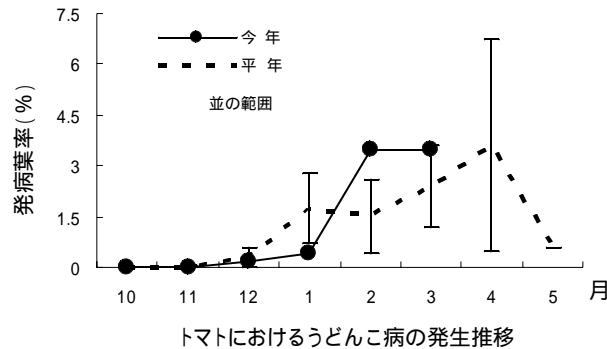
- 圃場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し圃場衛生に努める。
- 薬剤散布は低密度時が効果的であるので、多発する前に散布を行う。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成20年度病害虫発生予報第11号(平成21年2月2日付け)表紙参照。
- 平成20年度病害虫発生予察注意報第2号(平成21年3月2日付け)参照。

5 トマト

(1)うどんこ病

発生程度 : 並
予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病葉率は3.5%(前年0%、平年2.4%)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

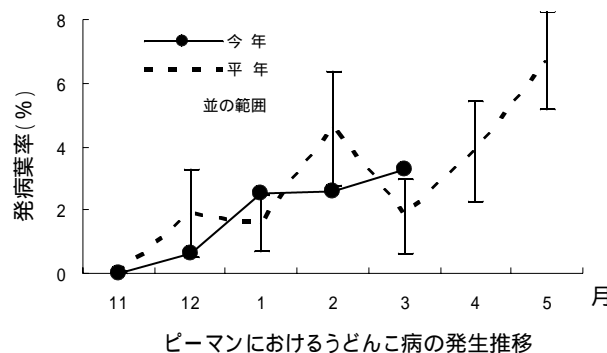
- 今後も発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- 老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- 摘葉等の残渣は、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

6 ピーマン

(1)うどんこ病

発生程度 : 並
予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病葉率は3.3%(前年0%、平年1.8%)とやや高かった。

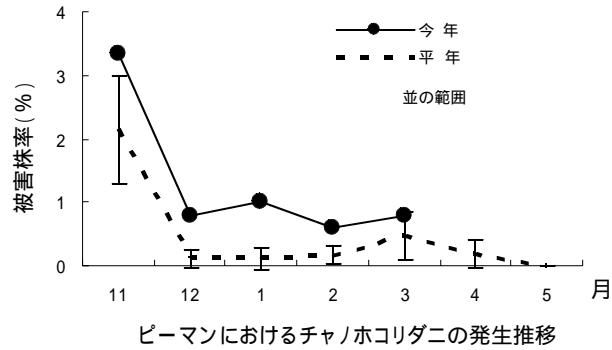


防除上注意すべき事項

- 今後も発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- 老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- 摘葉等の残渣は、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

(2)チャノホコリダニ
発生程度 : やや多
予報の根拠

- a 3月下旬の調査の結果、被害株率は0.8% (前年0.1%未滿、平年0.5%)と平年並であった。
- b 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並又は高い確率ともに40%と予想されており、本種の発生を助長すると考えられる。



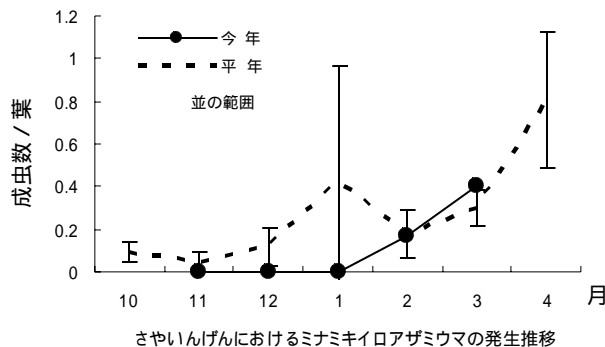
防除上注意すべき事項

- a 摘葉等の残渣は、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- b 繁殖が早く、多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- c 芯葉部や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、むらのないよう丁寧に散布する。

7 さやいんげん(平張り)

(1)ミナミキイロアザミウマ
発生程度 : 並
予報の根拠

- a 3月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.4頭 (前年0.3頭、平年0.3頭)と平年よりやや多かった。
- b 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並又は高い確率ともに40%、また降水量は平年並又は少ない確率は40%で、本種の発生が助長されやすい。



防除上注意すべき事項

- a 発生源となる周辺雑草の除草を行う。
- b 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。